

小鳥の如き我は

宮本百合子

青空文庫

枯草のひしめき合うこの高原に次第次第に落ちかかる大火輪のとどろきはまことにおかすべからざるみ力と威厳をもつて居る。

燃えにもえ輝きに輝いた大火輪はその威と美とに世のすべてのものをおおいながらしらずと凱歌を奏しながらこの高原の絶端に向つて下る。

山も——川も——野も——、そうして私まで、

世は黄金で包まれた。

雲は紫に赤にみどりにその帳をにかけて乾坤けんこんの間に高笑いする大火輪を見守った。

天もやがてはその火輪に下つて来られる也土も皆驚異の目を見はつて大きく生れて小さく育ち大きくなつていずこにかなり行く輝きのたまを見た。

金の衣を着、黄金の沓をはいて私はその中をたどった。

私の髪は聖者の様に純白に光り目は澄んで居る。

手には小笛ナレを握つて居る。

「偉大なる汝ナレ大火輪

笑いつつ嘲笑いつつ我に黙せよと汝ナレは叫ぶ

默さんか我、——我は默さんか——

偉大なる大火輪は叫ぶ

我に黙せよと、——

我に靈あり 偉大なり崇厳なり穩^{おだや}かなり

我に生ありてその日その日を燃えつつ暮す

何ぞ默せん、——何ぞ默せん

偉大なる大火輪！

汝の如く我に靈あり希望あり而して汝の如く燃ゆ

汝の如く、我は偉大なり！ 偉大ならんとす

汝の如く自然物なり！ 自然物ならんとす、

何ぞ默せん！ 叫^{ナレ}ばんうたわん汝と共に

けんこんの間に幽冥の間に！

汝偉大なる大火輪よ！ 共にうたわん

思ひあがつた大火輪の自らの歌に声を合わす私に

「愚かなるものよ——默せ——ひざまずき我を拝せ——愚なるものよ——」

と云うのを感じて斯う私は歌いつづけた。

ふみとどまり手を組んで眠りに入ろうとする大火輪を守る。

雲の色は一色になつた灰色である。

四辺に満ちる声は一つになつた歎いである。

私に守られつつ大火輪はしずかに眠りに入った。

草の葉は溜息をつき森の梢は身ぶるつて夜の迫るのを待つ。

四辺には灰色と歎いと怨がみちて居る――

けれ共私は――

ひややかにがんこな夜はせまつて宇宙は涙ぐむ――けれ共私は――

感謝すべき幸福と力をもつ私は小おどりして歌をうたう事が出来る。

「しじまにもだせる、――しおらしきものらよ、

夜は――けんこんの悪を包まんがために下る、

よろこびうたわん夜のために――くすしき夜のために――

夢をはらみ――夢の如せまり来る夜に我はひたらん

よろこびつつ――たのしみつつ――ゆめみて、

しじまにもだせるしおらしきものらよ！

安らかに眠れ！ おだやかに眠れ——

あけん日までしおらしきものらよ——。我もねむらん

あけん日まで——しおらしきものらよ——さらば——」

私は見返りながら魂の住家に□どる。

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第二十九卷」新日本出版社

1981（昭和56）年12月25日初版

1986（昭和61）年3月20日第5刷

初出：「宮本百合子全集 第二十九卷」新日本出版社

1981（昭和56）年12月25日初版

入力：柴田卓治

校正：土屋隆

2008年9月25日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

小鳥の如き我は

宮本百合子

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>